

コンコンとドアを

ノックして欲しいと願ひ

仲間と体験談をつづりました



真つ暗なトンネルから見えた一筋の光

P u r e

三人息子をもつ母親、三八歳の長男が薬物依存症者である。長男は二十歳ぐらいから鬱病、自分で医院に受診して薬を飲んで来た。二七歳で結婚、五年目にしてやっと子供ができた。喜びもつかの間、お嫁さんから言葉の暴力があると聞いた。双極性障害があり症状悪化、通院していた先生と相談、精神病院に入院が必要と言われた。家から一步も出ないでスマホ、タブレットを片手にネット依存症の様な生活。食事の差し入れをしながら様子を伺う。突然、家に来て、「お金をかしてくれ！」という。断ると五階からスマホ、タブレットを投げて車でいなくなる。事故を起したら連絡がとれない。心配で警察に相談する。夜中に長男が和歌山から家電にかけてきた。三男とお嫁さんが迎えに行った。長男を内緒で精神病院に保護入院させる。了承しないままの入院なのでイライラして、親の私に八つ当たりをして言った恨みのような言葉が忘れられない。

入院を機に長男と同居することになり、引越しの準備をしているとよくないものを発見。心がザワザワ。長男に知られたらまずいと思いついて帰る。(後で大麻だと知る)退院後、鬱の時は布団から出られない。躁状態では大きな声で話すと言うか叫んでいる。時間を考えずひとりカラオケ、近所から苦情が来る。ひとりでネットに話しかけ、まるで部屋に誰かが遊びに来ているかのようだった。しばらくは通院して薬を飲んで来たが、私が代わりに医院に行き薬をもらうが、そのうち飲まなくなっていく。何をして治らない、ほっといてくれ」体調の良い時は仕事をしていた。昼からスマホを操作して仕事ができず帰ったことも

あつたようだ。私の目の前で大麻を吸い、「大麻は身体に良くて依存することはない。タバコよりもええで。オカン勉強しいや」と反対に説教される。私が心配するのは、大麻を吸うことで覚醒剤に手を出すまで発展するかもしれない。一回使うとやめられなくなるのでは、この先どうなるやろか！と不安で心配で怖かった。

二月の寒い朝、近くの家に裸で不法侵入し（他にもいろいろ）逮捕される。その時私は仕事でいなかった。数時間前に次男は長男に目的もなく車を運転させられ、仕事だからと断つても指図されたと聞いた。夫は不気味な笑い方を見て頭がいかれたと思ったと言った。家宅捜査で大麻がでてきた。いつも散らかっているのにきれいに片付いていた。懲役十カ月執行猶予三年。面会に行っても「人を傷つけていない、悪いことはしていない」と悪びれる様子なし。保釈金の手続きをしても「人を傷つけてきたが、以前にも増して私は長男の行動が気になり、どこにいる？何をしている？ご飯食べにきいや！とラインを頻回に送った。既読が無ければよけいに心配。私が元気なうちに息子を更生させなければと市の保健センターに相談して色々指導を受ける。しんどい部分を聞いてあげる。SOSを言えるような雰囲気をつくる。本人が選べるような言い方をする。などなど、試すがうまくいかない。次男と私たち夫婦が今の家に引越し、近くに長男は独り暮らし。通勤の車から電気付いている？何をしているの？ご飯食べたかな？そばにいないとよけいに気になる毎日。

執行猶予中二〇二〇年一月に住居不法侵入。大麻所持、覚せい剤所持で二回目の逮捕。ショックだった。そういえば、顔つき、目の充血、普通ではなかった。今回は保釈金の手続き

はしなかった。が、留置所には私だけ面会、刑務所には夫と面会に行った。手紙で息子が欲しいと言う本や日用品をすべて購入し届けた。小遣いも差し入れた。身元引受人に関しては、裁判の時に弁護士さんから「なって頂けますよね」と言われサインをした。でも次男が身元引受人になることを嫌がって、どうすればいいかわからなかった。八月下旬、大阪保護観察所堺支部から手紙がきて、電話で事情を説明。身元引受人を断った。長男からすぐに手紙が来て怒りの文章。次男がどうしても嫌だと言うからと言いつのり手紙を書いた。三男に頼んでくれとか色々手紙に書いてあった。

保護観察所の紹介で家族会に参加した。息子を更生させる方法を聞きに来たのに最初は違和感があった。手を放す？何もしない？どういうこと？息子の事ではお手上げ状態でどうすることもできなかったから、「身元引受人にならないほうがいい」とはつきり言われて、今まで暗闇の中で手探り状態だったが少し光が見えてきたような感じだった。コロナ感染拡大で家族会にも参加できないこともあったができるだけ参加した。二〇二一年の一月に自助グループに繋がりが、ミーティングに参加。職場や友人、姉妹にこんな話はできないがミーティングで同じ悩みをもった仲間の体験を聞いて共有できた。息子は薬物依存症で病気である。家族である私にも何もできない。無力を感じた。

二〇二二年の一月中旬に刑務所から出所し、更生保護施設に入所した。二日後の夕方、必要なものは送る予定だったのに連絡もなく突然来た。風が強く寒かった。「お風呂に入り！ごはん食べ！」夫はセーターを渡し、私はお小遣いを渡した。更生保護施設に時間までに帰

らないと刑務所に逆戻りと、息子が言うので車で駅まで送った。無事着いたかと気になり一晩中心配だった。自助グループのミーティングやラインミーティング、家族会で「愛を持って手を放す」と学んだが、頭では理解できても実行するのは難しいと実感する。アイメツゼージを教えてもらった。長男から電話がかかってきた時「一緒に生活した時のことを思い出すと私はめっちゃくちやしんどかった。あなたもいちいち監視されたらしんどかったと思う。もう電話かけないで」と言えた！

六月末で更生保護施設を出てグループホームに入ると、電話がかかってきた。「今まで鬱症状を隠して仕事をするのはしんどかった」と弱音が聞けてうれしかった。このまま大麻や薬物を使わずに生活してくれたら良いけれど、この夏は暑くてストレスも半端なく強く感じるだろう。双極性障害とうまく付き合うしかないが、病院に行っていると聞いていないし、この先のことを考えると不安になってくる・・・が、先々のことを心配しても仕方がない。息子には自分でどうにかやってもらうしかない。回復施設の家族会にも参加して当事者の経験談を聞かせてもらい、少し息子の気持ち理解できる気がした。

回復施設に繋がってほしい気持ちはあるが、それも息子が決めることだ。依存症者は家族のもとで生活するのが一番楽だ。特に小遣いがもらえる。でもこれが本人を一番ダメにする行動だ。共依存が強い家族は、本人の自立を邪魔していると教わった。息子からお金を貸してほしいと言われて、「私がしんどくなるので貸すことはできない」と言ったもののお金を貸す方が、どんなにか気持ち的に楽なのだが。断る勇気を学んだ。私には自助グループの仲

仲間がいる。何かあれば相談できる。話を聞いてもらえる仲間がいる。心強い。

しかし、最近また息子からお金を貸してほしいと何回か夫に電話があつたらしい。夫から「これが最初で最後のお願ひ。一度と言わない。長男にお金を用だてて欲しい」と言われた。ドキドキしながら振り込んでしまった。

離れている息子には言えるのに、同居している夫にはノーが言えない。これからの私の課題である。



用語の説明

ハイヤーパワー

自分自身を超えた、自分よりも偉大だと認められる「力」。
薬物依存に無力であるからこそ、自分を超えた大きな力に自分をゆだねている。
その力についてどう解釈するかはまったく各人に自由に任されている。

スポンサー／スポンサーシップ

回復の十二ステッププログラムを実践するにあたり、メンバーはより経験のあるメンバーに相談し、助言や提案を示してもらう。その助言者をスポンサー、その関わりをスポンサーシップと呼んでいる。

回復の十二ステッププログラム

回復のプログラムとして提案されている十二のステップは、スピリチュアル（霊的）な特徴を持つ生きかたの原理。

フェローシップ

本来は仲間の集合体を指すが、ミーティングを離れた仲間同士の交流の意味で使われることが多い。